

立教大学学術推進特別重点資金(立教SFR)

個人研究

2019年度研究成果報告書

研究代表者	所属部局・職	氏名
	文学部 教授	松原 宏之 印
研究課題	19世紀前半ニューヨークの慈善組織 —近世・近代移行期における人間観の模索	
研究期間	2019年度	
研究経費 (1円単位)	(支出金額) 451,729円 / (採択金額) 452,000円	
研究の概要(200~300字で記入、図・グラフは使用しないこと)		
<p>19世紀前半のアメリカ合衆国ニューヨーク市における三つの慈善組織、すなわち1817年結成の被救済貧民化予防協会(SPP)、1812年に母体が発足するニューヨーク・トラクト協会(NYCTS)、そして1843年誕生のニューヨーク貧困者状況改善協会(AICP)とその関係者の経験を本研究は精査した。狭義の社会福祉史や公衆衛生史の前史から連れ出して、これら3結社を舞台にしたアメリカ革命後の政治社会の再編と市場革命の進展過程とを追跡したのが当研究である。</p>		

キーワード(研究内容をよく表しているものを3項目以内で記入)
[近世・近代移行期] [社会福祉] [公共圏再編]

研究成果の概要 (図・グラフ等は使用しないこと。)

1. 研究の概要

本研究が対象としたのは、19 世紀前半のニューヨーク市において種々の救貧事業を主導した三つの結社である。すなわち、貧困防止協会 (Society for the Prevention of Pauperism, SPP, 1817-1823)、ニューヨーク・トラクト協会 (New York City Tract Society, NYCTS, 1827-1866。前身の NY Religious Tract Society が 1812 年から)、ニューヨーク貧困状況改善協会 (New York Association for Improving the Condition of the Poor, AICP, 1843-1893/1939) である。

従来これらは、ニューヨークの急拡大にともなう貧民の増加に対応した救済慈善組織として位置付けられた。19 世紀末によりやく本格化する社会福祉国家の未熟な前身であり、貧民の怠惰を責め、勤労倫理の内面化を強いる救貧法体制下の事象とされがちであった。公衆衛生史においても、19 世紀前半は医学的にはいぜんとして萌芽的な試みの時期とされる。より社会史的な側面に注目する研究は、こうした貧困対策や公衆衛生対策がしばしば中産階級による下層民を規律する試みだったと強調してきた。

しかし、こうした見方は、19 世紀前半ニューヨーク・シティならびにアメリカ合衆国をおおっていた歴史的な変動をとらえていない。すなわち、18 世紀末におきたアメリカ革命の余波と 19 世紀にいつそう進展していく市場革命である。19 世紀初めに数と力を増していった結社 civil societies は、第一にアメリカ革命後の政治的・社会的な意志決定の場 (公共圏) とそこへの参加者が変化していくときの大きな拠点であったと思われる。第二に、こうした結社に加わる人びとは、市場経済が浸透し、社会的・政治的・経済的な地位が変動するなかで、合衆国社会における人間像が再考され、かれら自身が変化の渦中にあったのである。

本研究であきらかになりつつあるのは、第一に、対象とした 3 結社がまさにこうした公共圏の再編過程の拠点であったということである。第二に、結社に集った多彩な人びとの経歴と具体的な活動・発言から、かれらが政治的にも、経済的にも大きな変化をこうむるなかで、その状況に対して働きかけを試みていたことである。そして第三に、3 結社に集った人びとのあいだには思惑のちがいがあり、それらの衝突が 3 結社の変遷を推進していったらしいことである。かくして 19 世紀前半ニューヨークの公共圏と人間像の変化を解き明かす足がかりを得たのが本研究である。

2. 研究活動

2019 年度を通じた SPP、NYCTS、AICP 関連史料の探索と分析とは別に、SFR 資金で可能になった 2019 年 9 月 4 日～15 日までにニューヨーク歴史学協会とニューヨーク公立図書館とでの調査についてとくに報告する。

3 結社の刊行年次報告書類を超えて、議事録、パンフレット、報告書、トラクト、個人史料の収集に努めた。とくに、John Pintard 日誌ほか、3 結社に加わった人びとの関係史料に収穫が多く、その後の研究に大きな材料となった。また、3 結社にとどまらず、同時期の諸団体の史料を瞥見できたことも意義深かった。当該 3 結社の活動を前後する長い時間軸に置く足がかりを得た。歴史学協会のアーキビスト Erin Weinman、コロンビア大学 Elizabeth Blackmar、バーナード・カレッジの Gergely Baics に感謝したい。

3. 成果

以下、個別の局面にしばって成果の要点を報告する。

(1) 貧困防止協会 (SPP)

1812 年戦争と直後の不況にともなう困窮者の増大に対して、1817 年に発足したのが SPP である。際限のない救貧が救済資金の枯渇と貧者の恒常的な依存を招いていると批判し、貧者の怠惰ほか生活態度の修正を唱えた組織とひとまずは言える。

しかし、史料にそくして役員たちの来歴や活動・発言と照らすと、SPP がより長い政治史と政治経済史に占めた位置があきらかになってきた。重要なのは、SPP の折衷的な性格であり、この結社を舞台に 4 つの潮流がせめぎあったと思われる。

①SPP は、アメリカ革命後も従来の名望家支配を維持・再編する拠点としての役割を持っていた。民間結社でありつつも、その設立は半官半民的な性格をもっていたことが市議会史料から確かめられる。SPP の主導者のひとり市長 De Witt Clinton は、小農・親方層に支持されて名望家層に対抗する顔と、土地と血縁ネットワークとに支えられた従来の名望家層の顔とをもち、両勢力を糾合する場として結社を用いた。②この SPP に参画し、主導的役割を担うことで、リスペクタビリティを維持・獲得しようとする者を確認できる。各種の執筆物や評伝をたより

研究成果の概要 (つづき)

にみると、執行部を担った John Pintard、Thomas Eddy、John Griscom といった人びとをこの典型としてあげることができよう。③しかし SPP は、啓蒙主義、ヨーロッパ事情をふくむ専門知、市場経済に適合的な勤労倫理を核とする価値観をてこに、既存の価値体系・社会観・人間像へと変更を求める動きでもあった。SPP は救うに値する貧者を探し、育成しようとするが、その言説や貯蓄銀行事業案に表出するのは、旧来的な救貧の論理を組み換え、新しい人間像を具体化させる試みである。④同時に、SPP が先行・並行する草の根の福音主義的な挑戦に対しては抑制的だったことが興味深い。NYCTS などとは対照的に女性を含まなかった SPP は、先行する諸活動の乱脈をたびたび批判した。

この SPP がごく短命であり、十分な支持を喚起できないままに 1823 年にはより限定的な非行少年保護事業へと転身を余儀なくされたことは重要である。SPP を拠点に公共圏と人間像の改編をこころみた諸アクターは所期の目標を達せられなかったのである。

(2) ニューヨーク・トラクト協会 (NYCTS)

1812 年に発足した前身のニューヨーク宗教トラクト協会を引き継いで 1827 年に発足した NYCTS は、不信心者への宣教としてのトラクト(宣教用パンフレット)配布活動から始まり、不信心の原因としての貧困と生活態度の改善運動へと進んでいった。

この宗教結社についても、その宣教活動のみでは全体像をみることはできない。

NYCTS もまた公共圏再編の一角としての役割を担っていた。①先行研究のなかには NYCTS を長老派教会内の穏健な改良運動とみなすものもある。②しかし他方で、その NYCTS は公定教会制度のもとでの従来の信仰のあり方を批判し、回心経験を重視していた。従前通りでは有効に対処されない社会問題を憂い、それらの解決を志向した。活発な役員に改革派のバプティストをかかえ、支部や姉妹結社で多数の女性たちがさかんに活動していた。第二次大覚醒との連動もうかがわれ、主流派たる長老派教会の外郭とだけとはいいがたい。

下層民への態度は両義的であった。③出版産業の手法とメンタリティを共有して、SPP と同じく貧民の怠惰を批判し、回心を迫った。④しかし、トラクトをマンハッタン島内でもれなく配布しようとするなかで生まれた地区担当制は、トラクト配布だけでは貧困問題が解決しないことを報告しはじめた。

1830 年代後半に入ってこの NYCTS は内部にあつれきを増していく。トラクト配布の成功を言祝ぐ役員層と、女性ワーカーを多数ふくんだ現場とのあいだで乖離が進んだ。ここにおいて AICP が派生したように思われる。

(3) ニューヨーク貧困状況改善協会 (AICP)

SPP と NYCTS との関係で考えると、AICP についても先行研究の位置づけを修正することができる。一括して社会福祉史や公衆衛生史の前史とみるのは十分でなく、初期共和国的な政治環境が政党政治に取って代わられるなかで、新しい経路と形態をさがして AICP が発足したと言えよう。

AICP についての研究は現時点でいまだ進行中ながら、以下に確認できるいくつかの論点を提示する。

①派生元の NYCTS からの変化が興味深い。とくに NYCTS で大きな役割を担った女性ワーカーが AICP の専従ワーカーからは一掃されており、ちがいが際立つ。②また指導層にも変化がみられ、専門性という機軸が台頭したことも大きな特徴である。SPP や NYCTS の中核だった名望家やかれらへの同化を欲した人々とはちがひ、AICP の中心を担ったのは、新興の製造業者、金融資本家、そして専門職従事者であった。公衆衛生学調査や、住宅環境改善運動を通して、モラルに依存せずに下層民の規律を図った側面はみとめられる。③しかしながら、専門職を中心とした調査、提言、事業は、富裕層への批判を内包し、立法や行政を介して事態の打開を求める側面ももっていた。AICP もまた一枚岩でなく、諸潮流の折衝の場だったのである。

SPP や NYCTS と比較すると、AICP は市議会や行政への影響力の確保に成功し、社会福祉体制の制度的な嚆矢と言われてきた。しかし AICP 内部の状況を精査すると、公共圏をめぐる主導権争いも、市場経済の成否や新旧資本家の地位と権威をめぐる折衝も決着はつかなかったことがうかがわれる。1863 年のドラフト暴動、南北戦争の終結から、AICP の慈善組織化委員会との事実上の統合へといたる道筋がさらに検討すべき課題として浮上する。

研究発表 (研究によって得られた研究経過・成果を発表した①～④について、該当するものを記入してください。該当するものが多い場合は主要なものを抜粋してください。)

- ①雑誌論文 (著者名、論文標題、雑誌名、巻号、発行年、ページ)
- ②図書 (著者名、出版社、書名、発行年、総ページ数)
- ③シンポジウム・公開講演会等の開催 (会名、開催日、開催場所)
- ④その他 (学会発表、研究報告書の印刷等)

①雑誌論文

松原宏之「アメリカ革命後・市場革命下の〈救貧〉運動—19世紀前半ニューヨークの人間と社会」『歴史学研究』1001号(2020年度歴史学研究会大会報告)、2020年10月刊行予定。

③シンポジウム

松原宏之「アメリカ革命後・市場革命下の〈救貧〉運動—19世紀前半ニューヨークの人間と社会」2020年度歴史学研究会大会、全体会「「生きづらさ」の歴史を問う」、2020年5月23日予定、東京大学駒場キャンパス